

「ディスカバー^む農山^ら漁村の宝」（第8回選定）

有識者懇談会 議事次第

令和3年11月19日（金）
14時00分～14時30分
場所：官邸2階大ホール

1 開 会

2 議 事

- （1）第8回選定の選定地区及び選定者について
- （2）第8回選定のグランプリ、優秀賞及び特別賞の選定について
- （3）意見交換

3 閉 会

【配付資料】

資料1 第8回選定の選定地区及び選定者一覧（案）

資料2 第8回選定の選定地区及び選定者の概要（案）

資料3 第8回選定のグランプリ、優秀賞及び特別賞の選定（案）

参考1 有識者懇談会委員名簿

参考2 第8回選定の公募・選定について

「ディスカバー農山漁村の宝」(第8回選定) 選定地区及び選定者一覧(案)

資料 1

No.01 北海道 北見市 【環境保全・輸出】 環境大善株式会社 【概要】牛の尿を活用した消臭液、土壌改良材の開発・販売。 【成果】土壌改良材等の売上 約1.9億円 (H28) → 約2.6億円 (R2) 	No.02 北海道 北広島市 【伝統の承継】 北広島商工会「きたひろしま開拓プロジェクト委員会」 【概要】商工会や農業者が、赤毛米の復活栽培、加工品の開発。 【成果】赤毛米の栽培面積 30a (H28) → 60a (R2) 	No.03 北海道 当麻町 【食育教育】 当麻土地改良区 【概要】小学校と連携し、施設見学会や出前教室を実施。 【成果】田んぼの教室等の参加者数 103名 (R3) 	No.04 北海道 豊頃町 【6次化・ジビエ】 株式会社ELEZO社 【概要】ジビエの狩猟から生産・流通・加工まで自社で一貫して実施。 【成果】エソシカの搬入実績 500頭 (H28) → 1,000頭 (R1) 	No.05 北海道 陸別町 【6次化・企業連携】 日向 優 【概要】薬用植物を活用した機能性商品の開発や地域活動の実施。 【成果】地元企業や大学との商品開発、薬膳給食等の提供。 
No.06 青森県 中泊町 【地域づくり】 中泊町農産物加工販売施設出荷者協議会 【概要】農産物の集荷や移動販売により高齢出荷者・買物弱者を支援。 【成果】移動販売の売上 約3万円 (H30) → 約600万円 (R2) 	No.07 宮城県 気仙沼市 【水産・企業連携】 気仙沼水産資源活用研究会 【概要】企業と市が連携し水産資源を活用した商品開発、販売促進。 【成果】開発商品の売上 約1,300万円 (R1) → 約2,300万円 (R3見込み) 	No.08 宮城県 蔵王町 【農泊】 蔵王農泊振興協議会 【概要】空き家や荒廃農地を宿泊施設や観光農園に活用。 【成果】農泊関連売上 500万円 (H30) → 1億5,000万円 (R2) 	No.09 山形県 山辺町 【棚田保全】 グループ農夫の会 【概要】農作業体験や棚田米販売による棚田再生。 【成果】棚田再生面積 0.4ha (H23) → 2.6ha (R2) 	No.10 福島県 喜多方市 【食育教育】 福島県喜多方市教育委員会 【概要】市内の小学校が「農業科」を実施し栽培から調理まで体験。 【成果】実習や作文コンクールを実施。農業者を農業科支援員として配置。 
No.11 栃木県 宇都宮市 【6次化・景観保全】 株式会社ワカヤマファーム 【概要】タケノコ等のほか、竹林をクゲ地や観光資源として利用。 【成果】入場者数 4,000人 (H28) → 4万人 (R2) 	No.12 栃木県 小山市 【農福連携・6次化】 株式会社いちごの里ファーム 【概要】観光農園を展開するほか、地域活性化に貢献。 【成果】売上 4.2億円 (H20) → 8.8億円 (R3見込み) 	No.13 東京都 目黒区 【若者の活躍】 東京大学むら塾 【概要】千葉県等の遊休農地を活用し、地域活性化に貢献。 【成果】ワークショップ等の開催。遊休農地で栽培した米のブランド化。 	No.14 神奈川県 小田原市 【企業連携・6次化】 一夜城コロイツカファーム・マルシェ部会 【概要】有名パティシエと連携し荒廃農地を再生、誘客拠点を運営。 【成果】売上 約2,800万円 (R2) 	No.15 長野県 佐久市 【農泊・伝統の承継】 SAKU酒蔵アグリツーリズム推進協議会 【概要】日本酒製造を体験できる滞在型体験プログラムの提供。 【成果】体験プログラム参加人数 135人 (R2) → 300人 (R3見込み) 
No.16 新潟県 新潟市 【スマート農業】 株式会社白銀カルチャー 【概要】水稲生産の効率化により、高収益作物を導入。 【成果】水稲10a当たりの労働時間 20.5時間 (H26~H28) → 7.9時間 (R2) 	No.17 新潟県 上越市 【農村文化体験】 月影の郷運営委員会 【概要】大学と連携し廃校にて体験活動を実施。 【成果】利用者数 7,000人 (R1) 	No.18 石川県 羽咋市 【水産・伝統の承継】 石川県漁業協同組合柴垣支所 【概要】伝統の海士漁の再生のほか、応援隊等によるPR活動。 【成果】R3に3名の新人海士が誕生。R2に柴垣天然板ワカメを開発。 	No.19 岐阜県 飛騨市 【6次化】 有限会社牧成舎 【概要】SNS等を活用した消費者密着型販売による経営改善。 【成果】オンラインショップの売上 296万円 (H28) → 2,100万円 (R3見込み) 	No.20 愛知県 岡崎市 【若者の活躍・6次化】 安城農林高校エグポ研修班with岡崎市 【概要】竹林整備により出された竹炭を名産鶏の飼料に活用。 【成果】竹炭飼料による卵の品質改善。生産工程でJGAPを取得。 
No.21 三重県 津市 【農福連携】 一般社団法人三重県障がい者就農促進協議会 【概要】農業経営者と就農希望の障がい者の双方を支援。 【成果】農業「ジョブ」-養成人数 396人 (R2) 	No.22 京都府 和束町 【6次化・輸出】 お茶の通販・京都おぶが茶苑同会社 【概要】日本茶の通信販売や輸出のほか、オンライン教育も実施。 【成果】茶葉の輸出額 900万円 (H27) → 2,500万円 (R2) 	No.23 大阪府 堺市 【食育教育】 大阪府立農芸高等学校 【概要】消費者の大阪酪農の理解向上、牛乳消費の拡大に貢献。 【成果】酪農体験の参加者人数 64人 (H27) → 165人 (R2) 	No.24 奈良県 十津川村 【森林林業・6次化】 空中の村 【概要】森林を活用したアウトドア施設を村で新たな観光拠点に。 【成果】来園者数 373人 (R1) → 5,900人 (R3見込み) 	No.25 和歌山県 田辺市 【荒廃農地対策】 株式会社日向屋 【概要】農作業受託等により、鳥獣害対策と荒廃農地対策を実施。 【成果】農作業受託件数 4件 (H29) → 20件 (R2) 
No.26 和歌山県 田辺市 【ブランド化・輸出】 那須 誠 【概要】紫色の梅品種のブランド化、PR活動を実施。 【成果】輸出量 60kg (R1) → 760kg (R3見込み) 	No.27 岡山県 岡山市 【ブランド化・企業連携】 植田 輝義 【概要】企業と連携し、地元特産の黄二、パクチーのPR。 【成果】黄二、パクチーの売上 1,380万円 (H28) → 2,050万円 (R2) 	No.28 岡山県 新見市 【環境保全】 草間台エコミュージアム推進協議会 【概要】里山等の地域環境の維持保全活動を実施。 【成果】都市住民との交流。コロナ後を見据えガイド養成。 	No.29 広島県 庄原市 【地産地消】 株式会社数信村農吉 【概要】保育所の運営のほか、農産物やチーズの製造・販売等。 【成果】野菜、チーズ等の売上 約7,400万円 (H30) → 約8,000万円 (R2) 	No.30 山口県 長門市 【6次化・地産地消】 株式会社63Dnet 【概要】地域食材を使った商品づくり、販売チャネルの確立。 【成果】小売事業の売上高 約1,400万円 (H28) → 約4,200万円 (R2) 
No.31 徳島県 阿南市 【6次化・地産地消】 黒川 真太郎 【概要】農業・食品加工・販売のほか、学童保育も運営。 【成果】パン店舗の売上 109万円 (H29) → 445万円 (R2) 	No.32 徳島県 神山町 【森林林業・移住定住】 神山しずくプロジェクト 【概要】スギを使った木製品ブランドのほか、職人等の移住を促進。 【成果】木製品等の売上 400万円 (H28) → 1,300万円 (R2) 	No.33 香川県 高松市 【伝統の承継・輸出】 「高松盆栽の郷」推進協議会 【概要】国内外への盆栽の販売、オンラインイベントを実施。 【成果】盆栽の輸出本数 約12,000本 (R2) 	No.34 愛媛県 伊方町 【企業連携・移住定住】 愛媛県立三崎高等学校「せんたんプロジェクト」 【概要】地域の特産物を活用した商品開発、カフェの展開。 【成果】地元への就職率 25% (H28) → 40% (R2) 	No.35 高知県 本山町 【環境保全・鳥獣害対策】 吉延宮農組合 【概要】集落一帯となった獣害対策、棚田保全活動等を実施。 【成果】獣害防止柵の設置距離 1.2km (R1) 
No.36 福岡県 みやま市 【環境保全・地産地消】 みやま市環境衛生課 循環型社会推進係 【概要】生ゴミから作った液肥の活用、廃校をカフェ等として利用。 【成果】カフェ利用者数 1,536人 (R1) → 2,500人 (R3見込み) 	No.37 佐賀県 伊万里市 【地産地消】 佐賀県立伊万里実業高等学校フードプロジェクト部 【概要】規格外農産物を使ったカフェや余剰食材の回収活動。 【成果】規格外農産物を使った商品数 2種類 (H28) → 15種類 (R3見込み) 	No.38 沖縄県 名護市 【6次化・地産地消】 山原女性農業者の会 【概要】農業経営の安定、新規就農者の育成等の活動。 【成果】新規就農者支援数 9人 (H28) → 34人 (R2) 	緑 : 「コミュニティ部門」選定地区 青 : 「ビジネス部門」選定地区 赤 : 「個人部門」選定者	

「ディスカバー農山漁村の宝」第 8 回選定
選定地区及び選定者の概要（案）

令和 3 年 1 1 月

「ディスカバー農山漁村の宝」(第8回選定) 選定地区及び選定者位置図(案)

中国	【ブランド化・企業との連携】
No.27 岡山県 岡山市	
植田 輝義	
【環境保全・荒廃農地対策】	
No.28 岡山県 新見市	
草間台エコミュージアム推進協議会	
【地産地消・地域づくり】	
No.29 広島県 庄原市	
株式会社数信村農吉	
【6次化・地産地消】	
No.30 山口県 長門市	
株式会社63Dnet	

四国	【6次化・地産地消】
No.31 徳島県 阿南市	
黒川 真太郎	
【森林林業・移住定住】	
No.32 徳島県 神山町	
神山しずくプロジェクト	
【伝統の承継・輸出】	
No.33 香川県 高松市	
「高松盆栽の郷」推進協議会	
【企業との連携・移住定住】	
No.34 愛媛県 伊方町	
愛媛県立三崎高等学校	
「せんたんプロジェクト」	
【環境保全・鳥獣害対策】	
No.35 高知県 本山町	
吉延宮農組合	

九州・沖縄	【環境保全・地産地消】
No.36 福岡県 みやま市	
みやま市環境衛生課	
循環型社会推進係	
【若者の活躍・地産地消】	
No.37 佐賀県 伊万里市	
佐賀県立伊万里実業高等学校	
フードプロジェクト	
【6次化・地産地消】	
No.38 沖縄県 名護市	
山原女性農業者の会	

近畿	【6次化・輸出】
No.22 京都府 和束町	
お茶の通販・京都おぶ茶苑合同会社	
【食育教育】	
No.23 大阪府 堺市	
大阪府立農芸高等学校	
【森林林業・6次化】	
No.24 奈良県 十津川村	
空中の村	
【荒廃農地対策・鳥獣害対策】	
No.25 和歌山県 田辺市	
株式会社日向屋	
【ブランド化・輸出】	
No.26 和歌山県 田辺市	
那須 誠	

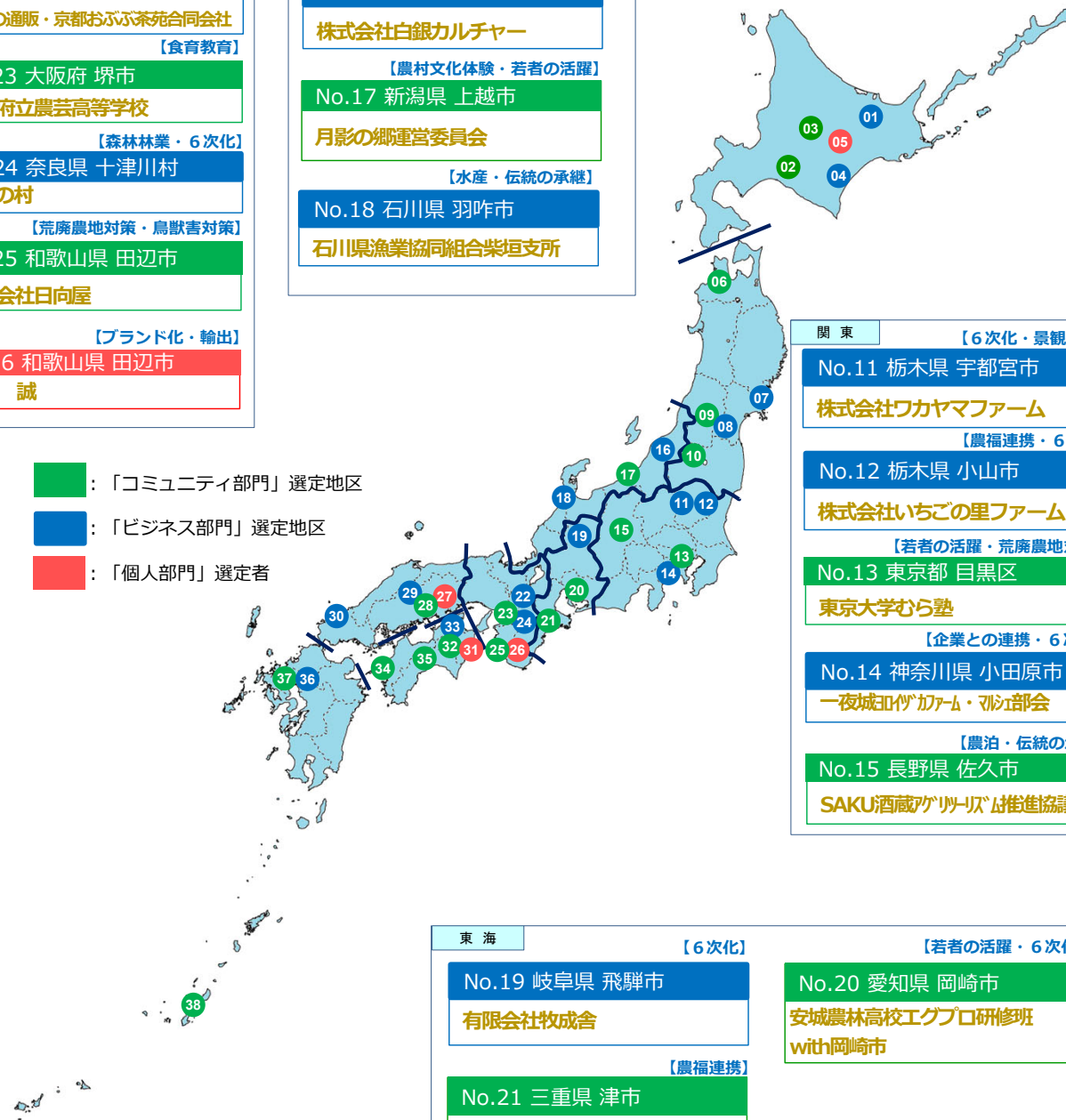
北陸	【スマート農業】
No.16 新潟県 新潟市	
株式会社白銀カルチャー	
【農村文化体験・若者の活躍】	
No.17 新潟県 上越市	
月影の郷運営委員会	
【水産・伝統の承継】	
No.18 石川県 羽咋市	
石川県漁業協同組合柴垣支所	

関東	【6次化・景観保全】
No.11 栃木県 宇都宮市	
株式会社ワカヤマファーム	
【農福連携・6次化】	
No.12 栃木県 小山市	
株式会社いちごの里ファーム	
【若者の活躍・荒廃農地対策】	
No.13 東京都 目黒区	
東京大学むら塾	
【企業との連携・6次化】	
No.14 神奈川県 小田原市	
一夜城01ファーム・刈江部会	
【農泊・伝統の承継】	
No.15 長野県 佐久市	
SAKU酒蔵アカリファーム推進協議会	

東海	【6次化】
No.19 岐阜県 飛騨市	
有限会社牧成舎	
【農福連携】	
No.21 三重県 津市	
一般社団法人	
三重県障がい者就業促進協議会	
【若者の活躍・6次化】	
No.20 愛知県 岡崎市	
安城農林高校エグプロ研修班	
with岡崎市	

北海道	【環境保全・輸出】
No.01 北海道 北見市	
環境大善株式会社	
【伝統の承継・企業との連携】	
No.02 北海道 北広島市	
北広島商工会「きたひろしま開拓プロジェクト委員会」	
【農村文化体験・食育教育】	
No.03 北海道 当麻町	
当麻土地改良区	
【6次化・シビエ】	
No.04 北海道 豊頃町	
株式会社ELEZO 社	
【6次化・企業との連携】	
No.05 北海道 陸別町	
日向 優	

東北	【地域づくり】
No.06 青森県 中泊町	
中泊町農産物加工販売施設	
出荷者協議会	
【水産・企業との連携】	
No.07 宮城県 気仙沼市	
気仙沼水産資源活用研究会	
【農泊】	
No.08 宮城県 蔵王町	
蔵王農泊振興協議会	
【棚田保全】	
No.09 山形県 山辺町	
グループ農夫の会	
【食育教育】	
No.10 福島県 喜多方市	
福島県喜多方市教育委員会	



01

環境大善株式会社



－ アップサイクル型循環システムで地球をキレイに！ －

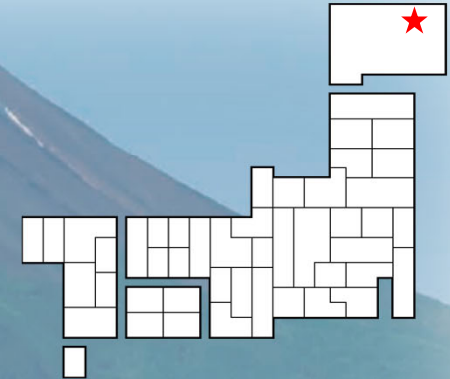


「善玉活性水」を使用したトマト（右）と不使用のトマト（左）

ビジネス部門

環境保全

輸出



所在地：北海道 北見市

概要

- 牛の尿を発酵・培養させた「善玉活性水」を用い消臭液、土壌改良材等の商品開発と製造販売を実施。
- 土壌改良材等は近隣アジア7ヶ国に輸出されており、輸出先での土壌改良や水質保全にも貢献。

成果

- 消臭剤や土壌改良材等の売上は、約1億8,800万円（平成28年度）から約2億6,000万円（令和2年度）に増加。
- 海外輸出量は、36トン（平成28年度）から80トン（令和2年度）に増加。



消臭剤の一般販売店での陳列の様子



北見工大との共同研究講座締結時の会見写真

02 北広島商工会「きたひろしま開拓プロジェクト委員会」



－ 北海道米の礎を築いた歴史で地域力アップ！ －

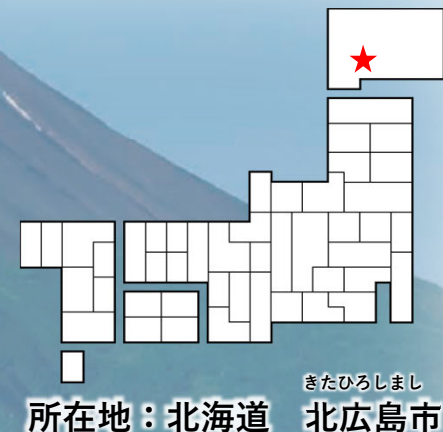


赤毛米の収穫、手作業による自然乾操作業

コミュニティ部門

伝統の承継

企業との連携



所在地：北海道 北広島市

概要

- 地元商工会や農業者等が連携し、赤毛米の復活栽培、加工品の企画・開発等により、市民の誇りの醸成と地域活性化に貢献。
- 赤毛米や赤毛米酒粕を使用した加工品の販売のほか、キャラクター「まいピー」によるPR活動等も実施。

成果

- 栽培に手間がかかる赤毛米の栽培面積について、令和元年度にはこれまでの30aから60aに増加。
- 赤毛米を使用した商品数について、10品目（平成28年度）から、22品目（令和2年度）に増加。



赤毛米の日本酒「久蔵翁」



キャラクター「まいピー」のグッズ商品類

03

とうまとちかいりょうく

当麻土地改良区

－ 「食と農の大切さ」 －



コミュニティ部門

農村文化体験

食育・教育



稲の生育観察と田んぼに棲む生き物観察

概要

- 小学4年生の社会科「水はどこから」の授業と関連して施設見学会のほか出前教室を開催し、米づくりや農業について学習。
- 当麻町教育委員会から無償でスクールバスの提供を受け、ソーシャルディスタンスを確保しつつ土地改良施設見学会を開催。

成果

- 毎年町内の小学生100名程度を対象に田んぼの教室、土地改良施設見学会を継続。
- 田んぼを総合学習の場とした「田んぼの教室」は18年目を迎え、行政やJA等と連携し、子どもたちの学習の場を提供。



大雪頭首工施設見学会



農業・農村の持つ多面的機能の学習

04

エレゾ

株式会社ELEZO社



— 料理人起点で食肉の未来を照射する食文化の確立 —

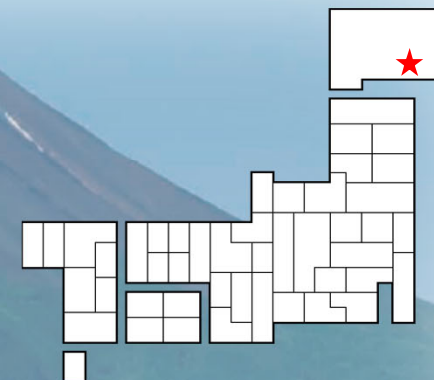


狩猟による生産食肉加工製品：テーリーヌ

ビジネス部門

6次産業化

ジビエ



所在地：北海道 豊頃町

概要

- 食肉における自社一貫フードチェーンと5業種のプロ集団構築を行い、食にまつわる課題解決に貢献。
- 企業として国内で初めてハンターを雇用し、農業被害の減少に貢献しつつ、食に特化した狩猟法を確立。

成果

- エゾシカの搬入実績は、500頭（平成28年度）から1,000頭（令和元年度）に増加。自社レストラン等の顧客数も4,200人（平成28年度）から17,300人（令和3年度見込み）に増加。
- 令和2年には、豪州から招待を受け、カンガルーを対象に自社モデルを体現する料理イベントを開催。



オーストラリア クイーンズランド州でのイベント風景



令和元年度 農林水産省料理人顕彰制度 料理マスタース受賞式



— 薬剤師が挑む「薬用植物で町おこし」 —

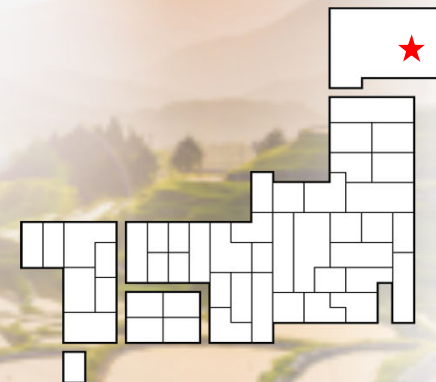


日向氏と畑の様子（植物はキバナオウギ）

個人部門

6次産業化

企業との連携



所在地：北海道 陸別町
りくべつちょう

概要

- 薬用植物を自ら栽培し、専門的知識を活かした機能性商品の開発や地域活動を実施。
- 地域おこし協力隊として着任後、薬剤師資格や製薬会社での研究経験を活かし、企業や大学と連携しながら町の経済活性化に貢献。

成果

- 町の栄養教諭と協力し学校に薬膳給食を提供したほか、北見市のレストランに薬膳メニュー「やくぜんうどん」を提供。
- 町内では畑作がほとんど行われていない中で、ゼロから新産業を創出できたことにより、メディアにも多数取り上げられ視察者も増加。



帯広の健康カフェにて講演会の講師を務めた



北見市レストランの「やくぜんうどん」

中泊町農産物加工販売施設出荷者協議会

— 地域共生社会の核となる産直を目指して！ —



コミュニティ部門

地域づくり

高齢者の活躍



所在地：青森県 中泊町

保冷車を活用した移動販売

概要

- 農産物の集荷・宅配・移動販売を実現し、高齢出荷者及び車を保有していない買物弱者への支援を実施。
- 商工業者等と協力して「ピュア朝市」の開催のほか、地元高校生のプロジェクトと連携した商品開発等を展開。

会員からの集荷状況

成果

- 移動販売の売上は、約3万円（平成30年度）から約600万円（令和2年度）に増加しており、高齢者等の買い物支援に貢献。
- 「ピュア朝市」では農産物出品のほか、ヨガや健康食の情報提供など健康づくりを学習・実践できる機会も創出。

「ピュア朝市」の様子

07

気仙沼水産資源活用研究会

— 気仙沼から、もっと。 —

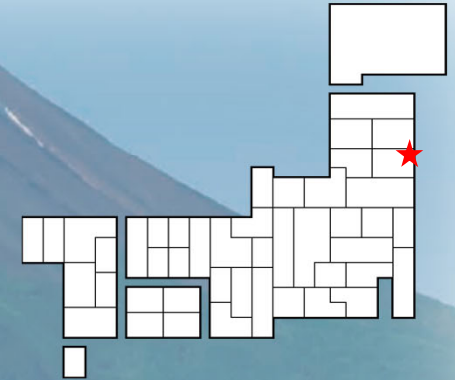


気仙沼水産資源活用研究会の開発商品

ビジネス部門

水産

企業との連携



所在地：宮城県 気仙沼市



平成27年度に（株）KESEMO MARINUSが誕生

概要

- 30社超の地元企業と気仙沼市が連携し、平成25年11月に発足。地域資源を活用した商品開発、共通ロゴ等による販路拡大。
- 平成27年度には、（株）KESEMO MARINUS^{ケセモマリナス}を設立し、化粧品等の水産加工製品ブランドを展開。

成果

- 開発商品の売上は約1,300万円（令和元年度）から約2,300万円（令和3年度目標）に増加見込み。
- フカコラーゲンを使った洗顔料や化粧品、ホヤを使った醤油やソース等の特徴的な新商品の開発、情報発信を実施。



ワーキンググループでのディスカッション

蔵王農泊振興協議会

— 持続可能な地域づくり戦略SDZ(ao)s —



空き家を改修した宿泊施設



ワーケーション風景



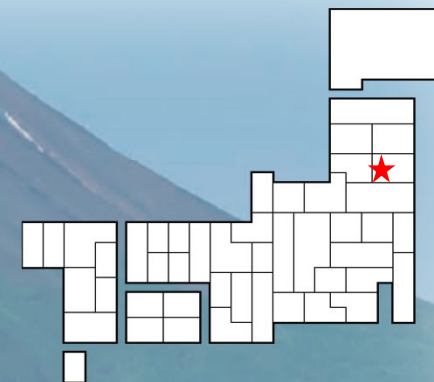
体験コンテンツ（陶芸体験）

ビジネス部門

農泊

荒廃農地対策

移住・定住

ざおうまち
所在地：宮城県 蔵王町

概要

- 「空き家」、「荒廃農地」等の「負債」を有効に利用することで、「宿泊施設」、「観光農園」等の「資源」に転化。
- 陶芸体験等の新たな体験コンテンツの導入、地域の食材を使った新メニュー開発ワークショップの実施など、観光資源を充実。

成果

- 農泊関連売上は、500万円（平成30年度）から1億5,000万円（令和2年度）に増加。
- コロナ以降はワーケーション、マイクロツーリズム等の新たなターゲットに切り替え、コロナ前よりも観光客が増加。

グループ農夫の会

— 棚田のてっぺんまでの再生を。 —



田植え風景

コミュニティ部門

棚田保全



概要

- 農作業体験や支援団体とのイベント活動、棚田米の販売など、地域内外の協力により、棚田再生と地域活性化に向けて活動。
- モンテディオ山形を運営する山形県スポーツ振興21世紀協会や山辺町等と連携し、棚田での米づくりに着目した棚田再生を実施。



大蔵棚田米、モンテ棚田米、山響棚田米

成果

- 棚田再生面積は、0.4ha（平成23年度）から2.6ha（令和2年度）まで拡大、会員数も101名に増加。
- モンテディオ山形と連携した雪中棚田サッカー大会、「棚田でピクニックコンサート」等の実施により交流人口の拡大に貢献。



雪中棚田サッカー大会

福島県喜多方市教育委員会

— 小学校農業科 いのちを育み、いのちをつなぐ —



黄金色に実った稲の刈り取り

コミュニティ部門

食育・教育



所在地：福島県 喜多方市

概要

- 国の構造改革特区の認定を受け、市内全ての小学校が、年間を通し農業学習として「農業科」を実施。
- 小学校農業科副読本による学習だけでなく、稲、大豆やトマト等の多数の野菜を自ら栽培し、調理・加工から食することまで実践。

成果

- 種まき、栽培管理、収穫、調理、試食までの実習のほか、年間を通じたまとめとして「小学校農業科作文コンクール」を実施。
- 地域の農業者を「農業科支援員」として配置。子どもたちにはより深い農業体験につながり、農業者には活動の場や生きがいに。



収穫祭で農業科支援員へ感謝の手紙と握手



力が必要な田押し車による除草

11

株式会社ワカヤマファーム

－ 竹・竹林という資源を使いきる －



24haもの敷地に広がる圧巻の竹林



タケノコや栗の6次化製品を販売

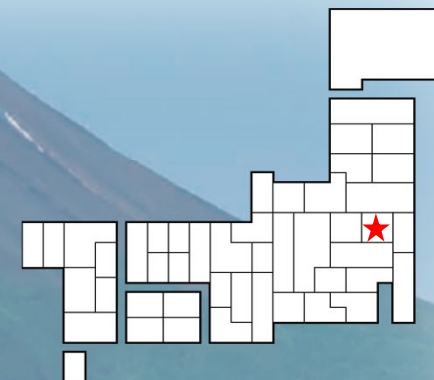


竹を自ら切り倒して竹工作の材料とする体験

ビジネス部門

6次産業化

景観保全



所在地：栃木県 宇都宮市

概要

- 宇都宮北部に24haの圃場を有し、タケノコ、竹、栗を栽培しつつ、その竹林を観光資源として一般開放。
- 竹林の美しさから、栃木県・宇都宮市のフィルムコミッションと連携し、撮影ロケ地としても利用。

成果

- 入場者数は、4,000人（平成28年度）から4万人（令和2年度）に増加。
- タケノコ等の農産物、6次化商品の売上は、270万円（平成28年度）から4,100万円（令和2年度）に増加。

12

株式会社いちごの里ファーム

— 農福連携の6次化観光農園で地域を豊かに！ —



いちご狩りの様子



概要

農福連携で働く従業員と「王さまいちごゼリー」

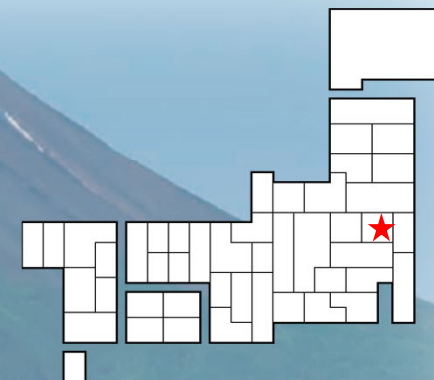


自社製いちごを使用した6次化商品

ビジネス部門

農福連携

6次産業化



所在地：栃木県 小山市

- いちごの観光資源化と就労継続支援事業所の開設、農福連携による地域の活性化と地域社会への貢献
- 国内最大級の観光農園を展開する一方で、平成30年度にはJGAP認証を取得。いちごを使ったジャムやケーキ等の6次産業化も推進。

成果

- 果物狩りやレストラン等の来客数は年間30万人近くに上り、売上は4.2億円(平成20年度)から8.8億円(令和3年度見込み)と2倍強に。
- 社会福祉法人めぶき会を設立し、58名の障がい者を雇用。コロナ禍でも1人のリストラもなく雇用の創出、地域活性化に貢献。

東京大学むら塾



— 農業×地域おこしで、むらの未来を変える —



ワークショップの様子

コミュニティ部門

若者の活躍

荒廃農地対策



所在地：東京都 目黒区



遊休農地での田植えの様子

概要

- 平成27年に東京大学の学生によって結成され、千葉県富津市で活動する谷田皿引農地水保全会との連携活動を実施。
- 遊休農地の活用等を通じて地域コミュニティの活性化に貢献。地域ブランディングによる6次化の実現。
- 住民とのワークショップ、地域の子どもたちに勉強を教える「寺子屋」やむらおこしコンテストなど、地域との交流を実施。
- 遊休農地でコシヒカリを栽培し、ブランド米「てとて」として発信し、販売促進。

成果



ふるさと納税イベントにて「てとて」をPR、販売

14 いちやじょう 一夜城ヨロイツカファーム・マルシェ部会

－ みかん農家とパティシエの連携で地域活性化 －



一夜城ヨロイツカファームの全景



マルシェ（農産品直売所）の外観

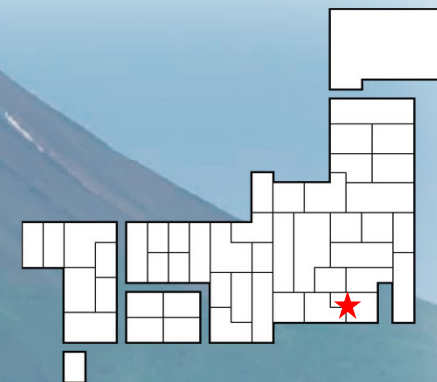


春・秋に実施する交流イベント

ビジネス部門

企業との連携

6次産業化



所在地：神奈川県 小田原市

概要

- 約7,000m²の荒廃農地をマルシェ部会員とパティシエ鎧塚俊彦氏が整備し「一夜城ヨロイツカファーム」と名付け平成23年に開業。
- 有名パティシエと連携して荒廃農地を再生し誘客拠点を運営、直売所を経営して会員の所得向上に寄与。

成果

- コロナにより来店客数が減少する中、客単価のアップを図ることで販売額の減少を食い止め、年間2,800万円程度の売上を確保。
- 新たな地域特産品としてオリーブの栽培にも取り組み、平成30年度にはオリーブオイル、新漬けの製品化・販売も開始。

15 SAKU酒蔵アグリツーリズム推進協議会

さくさかぐら

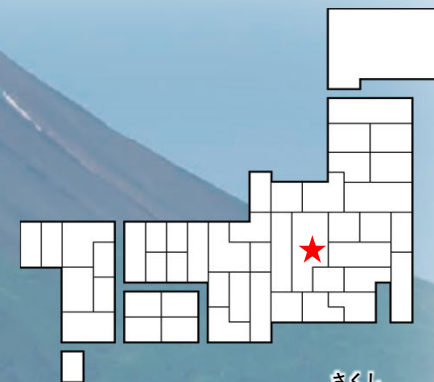


— 13の酒蔵がひしめく蔵人になれるまち —

コミュニティ部門

農泊

伝統の承継



所在地：長野県 佐久市



蔵人として本格的な酒造りを体験する参加者



築100年の蔵人の宿舎を宿泊施設にリフォームした「酒蔵ホテル」

概要

- 酒蔵に蔵人として宿泊し、日本酒造りを体験できる世界初の酒蔵ホテルとして、インバウンドを誘致。
- 空白地帯とされる軽井沢・長野間に位置する佐久の新たな冬のコンテンツとして、日本酒文化の神秘性、魅力を国内外に発信。

成果

- 令和元年度に立ち上げた取組ではあるが、蔵人体験人数は135人（令和2年度）から300人（令和3年度見込み）に増加。
- コロナによりインバウンドの受入はできていないが、国内在住の外国籍の顧客（約1割）も含め、顧客満足度は高い（100%）。



周辺飲食店で実施している着地型旅行商品

株式会社白銀カルチャー



— スマート農業で若者を受け入れ地域を活性化 —



自動給水栓とドローンで定型作業を省力化



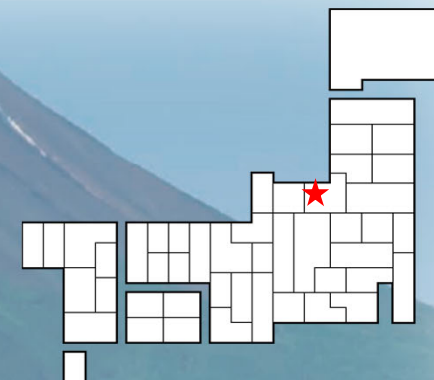
自動運転トラクターの作業見学会



自動選別機を導入し高品質な枝豆を出荷

ビジネス部門

スマート農業



所在地：新潟県 新潟市

概要

- スマート農業により水稻生産を効率化し高収益作物を導入、若者の雇用を促進、地域を活性化。
- ICT機器を積極的に導入し、効率化により生まれた余剰労働力を高収益な園芸作物等に振り向ける高収益型水田農業を実践。

成果

- 水稻の10a当たり労働時間は20.5時間（地域平均）から7.9時間（令和2年度）に約6割減少。枝豆、カリフラワー等の作付面積を増加。
- 水稻主体から多様な作物を導入することにより、売上高は1億2,500万円（平成28年度）から1億6,200万円（令和2年度）に着実に増加。

月影の郷運営委員会

— 地域と大学との連携で学校が蘇る懐かしさ —



廃校を再生した宿泊体験交流施設 月影の郷

コミュニティ部門

農村文化体験

若者の活躍



所在地：新潟県 上越市



地元のお母さん方が指導する田舎料理

概要

- 「宿泊・体験・交流」を目的に、廃校施設に学校関係や会社等を広く受け入れ活動を実施。
- 建築系4大学が共同で廃校再生計画を提案。市から指定管理の許可を受け、田舎体験メニューの提供、都市住民との交流等を実施。

成果

- 廃校活用の知名度が上がり、口コミでのリピーターにより年々利用者が増加。令和元年度には年間7,000人超に。
- コロナにより宿泊者等は減少したが、3密対策を実施しながら、ドローン講習会や小学校の総合学習の受け入れ等を実施。



ドローン飛行講習会



— 「チーム柴垣」で、伝統の岩ガキ漁を再生！ —

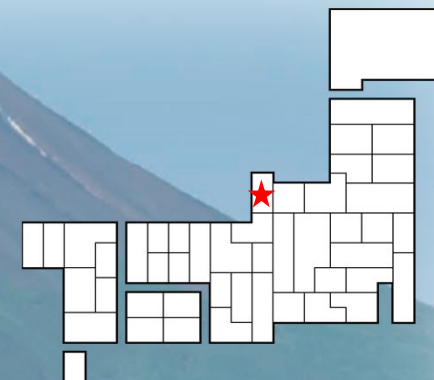


イベントで応援歌とダンスを披露

ビジネス部門

水産

伝統の承継



所在地：石川県 羽咋市

概要

- 伝統の海士漁再生を核に、応援隊の結成や海士漁の妨げとなるワカメの加工等を通じ地域の活力を創造。
- 地元のキャラクター、シンガーソングライター等からなる岩ガキの応援隊「チーム柴垣」を結成し、歌やダンスにより岩ガキのPRを実施。

成果

- 令和3年度には新たに3名の新人海士が誕生。ベテラン海士の指導を受けながら伝統漁業の継承者として期待。
- 令和2年度から、海士漁の妨げとなるワカメから、「柴垣天然板ワカメ」を商品開発。



新人海士の加入



板ワカメの加工を行う地域の女性たち



— ネットツールで田舎の牛乳屋が全国を目指す —



牛乳メーカー6社合同でのクラウドファンディング掲載ページ



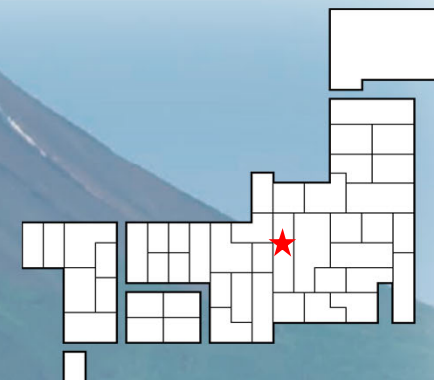
プロジェクトを行った経緯紹介バナー



自社オンラインネットショップ

ビジネス部門

6次産業化



所在地：岐阜県 飛騨市

概要

- クラウドファンディングの活用によりEC強化からSNS発信による消費者密着型販売で経営改善。
- コロナにより学校給食や地元観光業向けの牛乳・乳製品の需要が激減した中で、スピーディーにEC事業を強化。

成果

- 緊急事態宣言の発令により牛乳の消費が激減する中で、クラウドファンディングの募集を開始、12日間で約500万円を集める。
- コロナの影響を受けEC事業を強化。自社オンラインショップの売上は296万円（平成28年）から2,100万円（令和3年度見込み）に増加。

20 安城農林高校エグプロ研修班with岡崎市

あんじょうのうりんこうこう

おかざきし



— SDGs健康卵で岡崎おうはんを世界へ発信 —



官学連携による岡崎おうはんの普及活動

コミュニティ部門

若者の活躍

6次産業化



所在地：愛知県 岡崎市

概要

- 安城農林高校と岡崎市が連携協定を締結し、西三河の名産鶏「岡崎おうはん」の普及に向け、町おこしプロジェクトチームを結成。
- 環境保全活動（竹林整備）で廃棄された竹を炭に加工し、「岡崎おうはん」の飼料として活用しSDGsを実践。

成果

- 竹林整備により発生した竹炭を鶏の飼料とすることで卵の低脂質・低コレステロール化を実現するとともに、JGAPを取得。
- 地元洋菓子店と連携し、おうはんハニープリン、ハニーマドレーヌの2品を開発。



竹水鉄砲合戦協会と連携し竹林整備



おうはんハニープリン、ハニーマドレーヌの商品化

21 一般社団法人三重県障がい者就農促進協議会



－ 見て 知って つながって ひろがれ！ 農福連携 －



施設外就労によるJA津安芸のキャベツの収穫



特別支援学校くろしお学園地域伝統野菜高菜の収穫



ファーマーズマーケットでのマルシェ開催

コミュニティ部門

農福連携



概要

- 農業ジョブトレーナーを養成し、福祉事業所や農業経営体をサポートすることで、農福連携を推進。
- 県教育委員会・特別支援学校と連携し、県立特別支援学校9校全てが農業実習を実施。農業経営体を進路とする生徒を育成。

成果

- 障がい者就農人数は、540人（平成28年度）から650人（令和3年度）に増加。
- 農業経営者と就農を希望する障がい者・家族の双方に関わり、障がい者を支援・指導する「農業ジョブトレーナー」養成講座を開催し、令和2年度末でのべ396人を養成。

22 お茶の通販・京都おぶぶ茶苑合同会社

ちやえん

— DX化推進で地域力を高め、日本茶を世界へ —



オンライン茶摘みイベントにて集合写真



Online Tea Educationの様子

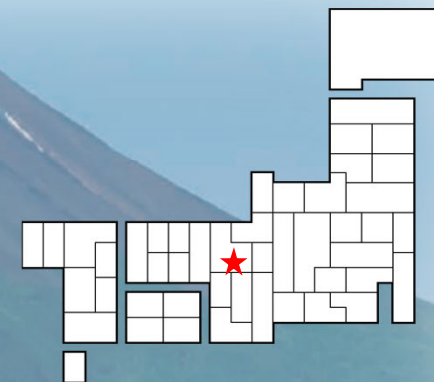


インバウンド茶畑ツアーにて茶栽培の説明

ビジネス部門

6次産業化

輸出



所在地：京都府 和束町
わづかちょう

概要

- 宇治茶生産地にて、日本茶の通信販売・輸出、オンライン教育部門への参入を通じ、町内ビジネスのDX化推進に貢献。
- ネット販売や輸出のほか、年4回茶畑直送の茶葉が届く「茶畑オーナー制度」等の取組も実施。

成果

- 平成20年から輸出に取り組み、世界116ヶ国に茶葉を直送可能に。輸出額も900万円（平成27年度）から2,500万円（令和2年度）に増加。
- 令和3年度から世界中から日本茶を学ぶことができる「Online Tea Education」を開始するなど、オンライン教育部門にも参入。

23

おおさかふりつのうげいこうとうがっこう

大阪府立農芸高等学校



— 地域、学校、社会をつなぐ酪農教育ファーム！持続可能な大阪酪農を目指して —

コミュニティ部門

食育・教育



指定団体と協力したオンライン酪農体験



小中学校の酪農体験受け入れ

概要

- 府内唯一の酪農教育ファーム認証牧場として、消費者の大阪酪農に対する理解向上と牛乳消費の拡大を目標に活動を開始。
- 近隣の方々や小中学校を対象に、大阪酪農の現状と地域産牛乳の必要性について発信。

成果

- 酪農体験の参加者人数は、64人（平成27年度）から165人（令和2年度）に増加。コロナの影響によりオンラインでも実施。
- 関係機関と連携し、食博覧会大阪での食育セミナーや地域マルシェなど様々なイベントを通じ、地域酪農や牛乳・乳製品をPR。



食育セミナーの開催（食博覧会大阪2017）

空中の村

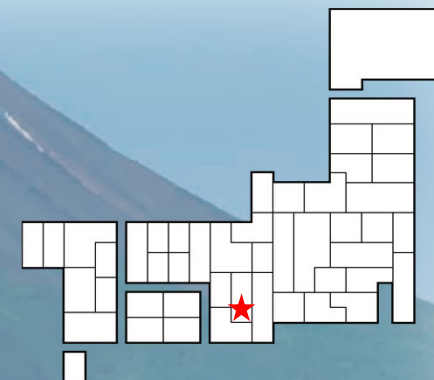


— 山奥で過ごす、大人の遊び場 —

ビジネス部門

森林・林業

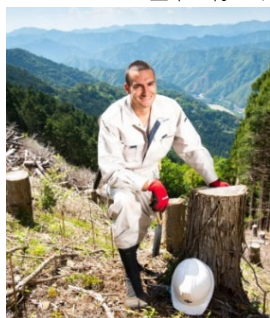
6次産業化



とつかわむら
所在地：奈良県 十津川村



空中の村「ぐねぐね橋」



林業従事者のフェレリ・ジョラン代表

概要

- 森林を活用したアウトドア施設「空中の村」の管理、運営を行い、村の新たなツーリズムの拠点施設として、誘客を促進。
- フランス国籍の地域おこし協力隊員が、地域の森林を活かし、アート×アスレチック×憩いの場を融合させたアウトドア施設を整備。

成果

- 来園者数は373人（令和元年度）から5,900人（令和3年度見込み）へと増加。
- 施設内に十津川の木材をふんだんに使用し、園内で提供される弁当には地元の食材を提供するなど、村内の資源を有効活用。



空中の村 案内図

株式会社日向屋

— 農業と鳥獣害を地域の宝に —



コミュニティ部門

荒廃農地対策

鳥獣害対策



所在地：和歌山県 田辺市

たなべし

日向屋スタッフ

概要

- 鳥獣害、担い手不足、荒廃農地等の地域課題を解決するため、平成29年に若手農家が鳥獣捕獲チームを結成。
- 農作業受託・農産加工品の販売を柱とした、鳥獣害対策と荒廃農地解消を組み合わせた地域活性化事業を実施。

成果

- 梅の剪定や草刈り、伐採等の農作業受託件数は、4件（平成29年度）から20件（令和2年度）に増加し、荒廃農地の再生に貢献。
- 有害駆除捕獲実績は140頭（平成29年度）から78頭（令和2年度）まで減少しており、農産物被害も減少。

農作業受託作業

再生された荒廃農地



— しほううめ 紫宝梅『ミスなでしこ®』のブランディング —

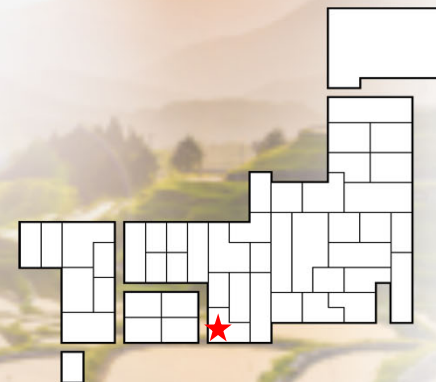


紫宝梅「ミスなでしこ」と那須氏

個人部門

ブランド化

輸出



所在地：和歌山県 田辺市

概要

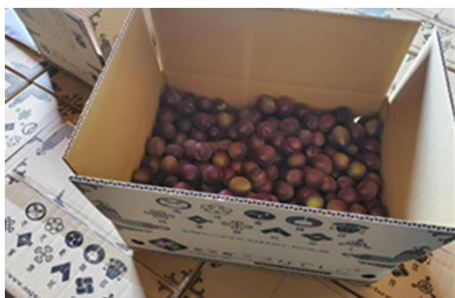
- 平成17年に父親が品種開発の末に生み出した果皮が紫色の大梅品種を自らが旗振り役となってブランド化、PR活動を実施。
- 「ミスなでしこ」として商標登録を取得するなどのブランド化、香港への輸出のほか、幹線道路沿いに看板設置等の宣伝も実施。

成果

- 様々なPR活動や販路拡大により、「ミスなでしこ」の出荷量は、1,754kg（平成29年度）から3,325kg（令和3年度見込み）に増加。
- 香港への輸出量は、60kg（令和元年度）から760kg（令和3年度見込み）へ増加。



香港百貨店での青果販売



千両箱風 個人通販用段ボール



— 農業を通じて皆様を繋ぐ架け橋になりたい！！ —



2021年国和産業株式会社コラボ パクチーゼリー完成



2021年タクシー乗務員へ農業指導

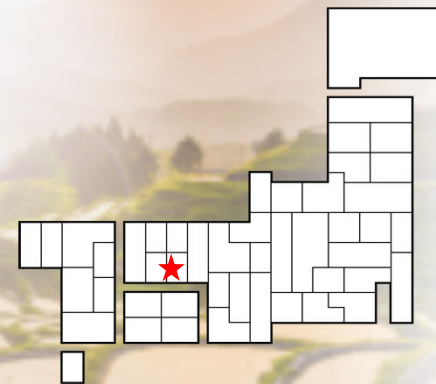


農場にてパクチー奉納祭前のお祓い

個人部門

ブランド化

企業との連携



おかやまし
所在地：岡山県 岡山市

概要

- 地元特産の黄ニラと岡山パクチー大使として、メディアや祭への参加により産地をPRするとともに、学校、福祉、企業とも連携。
- 岡山交通（株）とコラボし、「黄ニラタクシー」を誕生。タクシー乗務員への農業指導も実施。

成果

- メディア等でのPRにより、黄ニラと岡山パクチーの売上高は、1,380万円（平成28年度）から2,050万円（令和2年度）に増加。
- 「黄ニラタクシー」のほか、地元企業とコラボし「パクチーゼリー」を商品化するなど、企業連携も強化。

くさまだい 28 草間台エコミュージアム推進協議会

－ 発見草間台 発信草間台 進化草間台 －



コミュニティ部門

環境保全

荒廃農地対策



所在地：岡山県 新見市



小学生の洞窟体験



新しく作成したガイドマップ

概要

- 草間台地の自然・産業・歴史文化等の宝物を発見し、それらを護るとともに発信し、地域振興に貢献。
- 地域を自然、産業、歴史文化等の宝物にあふれる「エコミュージアム」（屋根のない博物館）と捉え、里山の維持保全等を実施。
- 荒廃農地解消のためのソバ栽培のほか、里山の荒廃防止のためのきのこ原木栽培を実施。
- エコツアー、そば打ち体験等による都市住民との交流のほか、コロナ後を見据えたガイド養成講座やガイドマップ作成を実施。

成果



きのこ栽培講習会

株式会社敷信村農吉

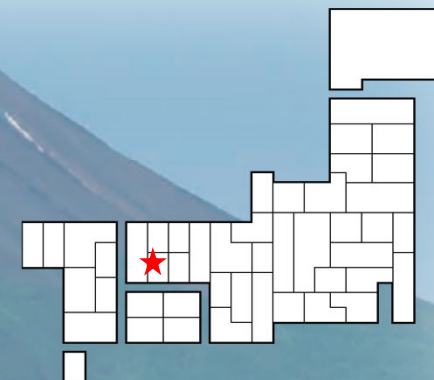
— かけがえの。ない。もの。こと。 —



ビジネス部門

地産地消

地域づくり



所在地：広島県 庄原市

しょうばらし



地元生乳100%の手作りチーズは国内外で高評価



保育所では、田んぼ・園庭の畑で農作物を育てる

概要

- 里山の自然を活かした保育所の運営を軸に、農産物やチーズの製造・販売等の地域密着型の事業を展開。
- 保育所では、園庭での野菜栽培、自社農園の農産物を使った給食の提供など、「身土不二」を教育。

成果

- 野菜やチーズ等の売上は、コロナの影響がある中で、約7,400万円（平成30年度）から約8,000万円（令和2年度）に増加。
- 地元牧場の生乳を100%使用した高品質なナチュラルチーズは、国内・国際のチーズコンクールで金賞を受賞。



野菜集荷場は地域の農家の憩いの場にも

株式会社63Dnet

— つながる、つたわる、ものづくり、人づくり —



地元産マルシェ「LaLaフラン」

一次産業のアイデアをカタチにするみんなの加工場。

ながとラボは、地域産業の発展と一次産業者の所得向上、次世代の担い手育成と雇用創出を目的に開設された6次産業化支援施設。専門家のアドバイスにもとづいて各種製造許可施設等を活用していただくことで、一次産業者の商品開発費用負担を軽減するとともに、魅力ある地域産品づくりを応援します。



6次産業化支援施設「ながとラボ」



海の恵みと大地の旨みがぎゅっと詰まった海辺のパン屋



オリジナル
「海の天然酵母」。

地元・長門市仙崎の海で採取された海藻から分離したバン利用菌「海の天然酵母」を使用した低塩長時間発酵の自家製バンは、ラバークリーでしか味わえないこだわりの逸品。海の天然酵母は一般的なバン酵母に比べてゆっくりと発酵するため、手間はかかるりますが、そのふんふん素材の味を感じやすい美味しいバンに仕上がります。

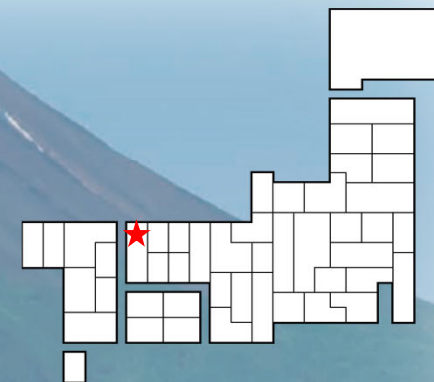
[illegible]

海辺のパン屋「ララベーカリー」

ビジネス部門

6次産業化

地產地消



所在地：山口県 ながとし 長門市

概要

- 地域食材を使った、コロナの状況でも強い商品づくりと幅広い販売チャンネルの確立により、地域事業者の収入確保に貢献。
- 農業生産者が6次産業化を行うために必要な施設や専門知識・ノウハウを補完し6次産業化を支援する「ながとラボ」を運営。
- 通信販売の促進等により、小売事業の売上高は約1,400万円（平成28年度）から約4,200万円（令和2年度）に増加。
- 地域食材専門の店舗「LaLa^{ララ}フラン」、道の駅内に「ララベーカーリー」、地元食材を使った非常食の販売など、販路を拡大。

成果

黒川 真太郎

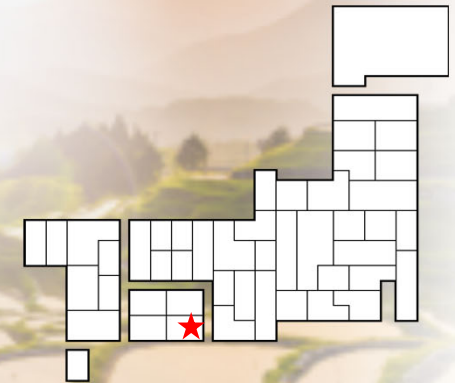
— 田舎の宝を活かした小さな6次産業 —



個人部門

6次産業化

地産地消



所在地：徳島県 阿南市

あなんし



毎月1回JRT（四国放送）ラジオで活動等の情報発信



過疎地の空き家を有効利用したパン屋



横浜の子どもたちが休校中の学校で合宿・交流活動

概要

- 農業・食品加工・販売の3本柱の小さな6次産業を実践するとともに、子育て環境の充実として学童保育を立ち上げ運営。
- 環境保全型農業での農産物づくりを実践。お米の消費拡大のため、パンや菓子等の食品加工、全国の消費者へのネット販売も実施。

成果

- 平成29年10月にパン店舗を開店。売上は初年度の109万円から令和2年度には445万円に増加。
- 10種類の野菜セット、ブランド米、パンセット等を全国発送しており、現在全国で約240世帯が登録中。

かみやま 神山しずくプロジェクト

－ 林業×デザインで持続可能な豊かな田舎へ！ －



スギにしかできない赤白の杣目が美しい木製品



薪割りや木工体験など様々な啓発イベントを開催



町内の遊休施設を活用した自社工場の開設

コミュニティ部門

森林・林業

移住・定住



所在地：徳島県 かみやまちょう 神山町

概要

- 山林課題の啓発活動、町産材を活用した商品開発・販売など、地元産業振興により地域活性化に貢献。
- スギの弱点とされる赤白の木目を活かしたデザインの木製品を開発。地域おこし協力隊制度を活用した職人育成事業も実施。

成果

- しずくブランドの木製品やアロマ商品の売上は400万円（平成28年度）から1,300万円（令和2年度）に増加。
- 会員関連団体の雇用者9名全員が町内に定住。地域おこし協力隊を受け入れた事業も展開しており、移住促進に貢献。

「高松盆栽の郷」推進協議会

— 高松盆栽を世界へ！！盆栽エクスペリエンス —

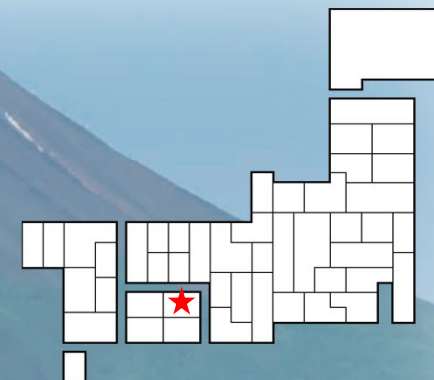


高松盆栽オークション 盆栽紹介ライブ配信

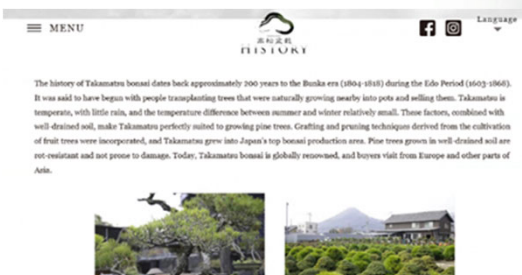
ビジネス部門

伝統の承継

輸出



所在地：香川県 高松市



4ヶ国語に対応した「高松盆栽」のウェブサイト

概要

- 国内外に向けた高松盆栽の情報発信と担い手の育成によるJA香川県「高松盆栽の郷」の発展に向けた取組。
- 4ヶ国語対応のウェブサイト等により国内外に高松盆栽の紹介・販売を実施。令和2年度はオンラインでのオークション等を実施。

成果

- ウェブサイトには世界50ヶ国以上からアクセスがあり、令和2年度の盆栽の輸出本数は約12,000本に増加。
- 拠点施設「高松盆栽の郷」の令和2年度の年間来場者数は約9,000人あったほか、盆栽学校やBONSAI技術研修も実施し。



小学生も参加した「高松盆栽学校」

34 愛媛県立三崎高等学校「せんたんプロジェクト」



— 四国最西端から最先端の活動を！ —

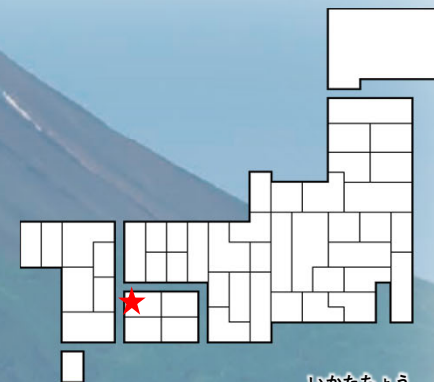


みさこうCafe

コミュニティ部門

企業との連携

移住・定住



いかたちよう
所在地：愛媛県 伊方町

概要

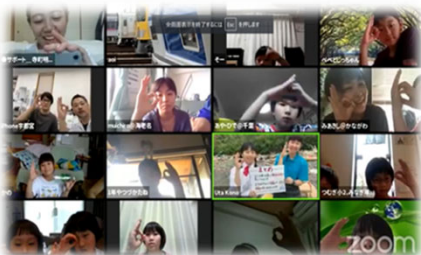
- 高校生が主体となる地域の魅力開発及び発信により、伊方町の関係人口の増加と移住・定住者数の確保に貢献。
- 全校生徒をPR活動等、カフェ、商品開発、ツアー、アート、防災の6つのグループに分け探求活動を実施。



第3回ダルメイン世界マーマレード&フェスティバルで金賞を受賞

成果

- 本プロジェクトにより、県外からの入学志願者数が増加し、地元への就職率も25%（平成28年度）から40%（令和2年度）に増加。
- 地域の特産物を活用した「みさこうカフェ」を展開しているほか、開発した「だいだい」マーマレードが金賞を受賞。



オンラインイベントの開催

吉延宮農組合



— 吉延の自然・棚田の原風景を将来へ —

コミュニティ部門

環境保全

鳥獣害対策



吉延集落の棚田



鳥獣被害防止柵設置の様子

概要

- 地域の持続可能な営農体制づくりに加え、棚田散策ツアーの実施など地域活性化を目指した幅広い活動を実施。
- 集落一体となって防護柵の設置等の獣害対策を行っているほか、田んぼアートや棚田コンサート等の都市との交流事業も実施。

成果

- イノシシの水稲被害を防止するため、平成25年度には3.5km、令和元年度には1.2kmの獣害防止柵を設置。
- 機械の共同利用や農作業の受託により、持続可能な営農と棚田等の原風景の保全に貢献。



稲刈り体験交流の様子

36 みやま市環境衛生課循環型社会推進係



— 循環型社会を体現する地域憩いの施設 —



オープニングイベント ルフランマルシェ



日替わりカフェの様子

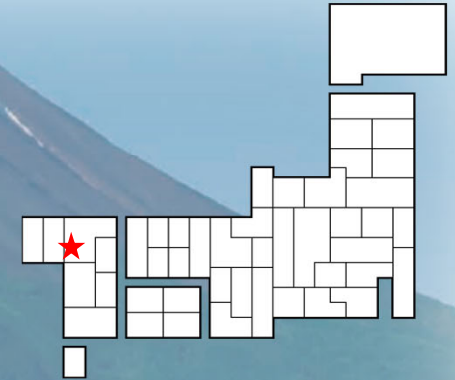


食品開発室で開発・販売されたドレッシング

ビジネス部門

環境保全

地産地消



所在地：福岡県 みやま市

概要

- 生ゴミから天然肥料の液肥をつくり、市内の農家に利用してもらいつつ、市民にも体感してもらうため、廃校に「ルフラン」をオープン。
- 廃校になった小学校を改装し、食品加工室、カフェ、直売所（無人販売）、シェアオフィスを運営。

成果

- 食品加工室、日替わりカフェを営業。カフェ利用者は1,536人（令和元年度）から2,500人（令和3年度見込み）に増加。
- 廃校になった小学校の3教室をテレワークオフィスに改装し、大学の授業、リモートワーク、ウェブ会議等に利用。

37 佐賀県立伊万里実業高等学校フードプロジェクト部

さがけんりついまりじつぎょうこうとうがっこう



— 食で伊万里を元気に！～伊万里版SDGs～ —



フードドライブ カフェ・マルシェ

コミュニティ部門

若者の活躍

地産地消



所在地：佐賀県 伊万里市



伊万里焼協同組合と連携した伊万里焼カフェ

概要

- 規格外地域農産物を活用した商品開発・カフェの運営。コロナの影響によりテイクアウト形式・移動型マルシェも実施。
- 食品ロスを防止するため、家庭で眠っている余剰食材を回収し子ども食堂や福祉施設等に届ける「フードドライブ」活動も実施。

成果

- 規格外品を活用した商品については、2種類（平成28年度）から、15種類（令和3年度見込み）に増加。
- まちなかカフェ・マルシェにフードドライブを併設し、100点以上の食材を集め、子育て支援センター等に提供。



商店街の空き店舗を活用したまちなかカフェ

山原女性農業者の会

— 残したい 伝えたい やんばる農業と食とくらし —

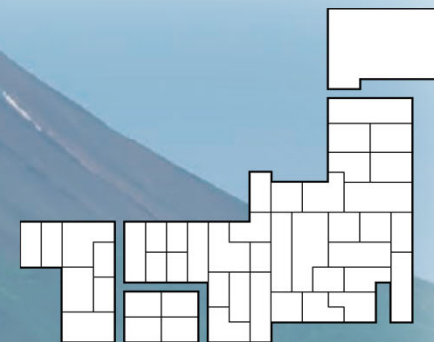


若手会員との加工講習会

コミュニティ部門

6次産業化

地産地消



所在地：沖縄県 名護市



若手女性農業者とともに他地区へ視察

概要

- 沖縄本島北部地区の女性農業者等で構成され、若手農業者への世代交代も図りつつ、農業経営の安定や新規就農者の育成等を実施。
- 島ヤサイ等の伝統食材・地域食や農産物活用法の伝承・継承活動、農泊関連活動も実施。

成果

- 新規就農者支援数については、年間9人（平成28年度）から34人（令和2年度）に増加。
- 島ヤサイ等の栽培方法やレシピをまとめた冊子や、地域の味や暮らしをまとめたガイドブックを発行。



料理レシピ本・体験ミニガイド本

「ディスカバー農山漁村の宝」第8回選定
グランプリ、優秀賞及び特別賞の選定（案）

令和3年11月

「ディスカバー農山漁村の宝」 （第8回選定）グランプリ、優秀賞及び特別賞（案）

グランプリ

一般社団法人三重県障がい者就農促進協議会（三重県津市）

コミュニティ部門

- ・農業ジョブトレーナーを養成し、福祉事業所や農業経営体をサポートすることで、農福連携を推進。
- ・農業経営者と就農を希望する障がい者・家族の双方に関わり、障がい者を支援・指導する「農業ジョブトレーナー」養成講座を実施し、令和2年度末でのべ396人を養成。
- ・障がい者就農人数は、540人（平成28年度）から650人（令和3年度）に増加。



優秀賞

グループ農夫の会 （山形県山辺町）

コミュニティ部門

- ・農作業体験や、モンテディオ山形等と連携したイベント活動、棚田米の販売など、地域内外の協力により、棚田再生と地域活性化に向けて活動。
- ・棚田再生面積は、0.4ha（平成23年度）から2.6ha（令和2年度）まで拡大。会員数も101名まで増加。



優秀賞

株式会社ELEZO社 （北海道豊頃町）

ビジネス部門

- ・企業として国内で初めてハンターを雇用し、ジビエの狩猟から生産・流通・加工まで自社で一貫して実施。
- ・エゾシカの搬入実績は、500頭（平成28年度）から1,000頭（令和元年度）に増加。自社レストラン等の顧客数も4,200人から17,300人に増加。



優秀賞

植田 輝義 （岡山県岡山市）

個人部門

- ・地元特産の黄二ラと岡山パクチー大使として、メディアや祭への積極参加を通じ、産地をPRするとともに、学校、福祉、企業とも連携。
- ・黄二ラと岡山パクチーの売上は、1,380万円（平成28年度）から2,050万円（令和2年度）に増加。



優秀賞

神山しずくプロジェクト （徳島県神山町）

- ・山林課題の啓発活動、町産材を活用した商品開発・販売など、地元産業振興により地域活性化に貢献。
- ・会員関連団体の雇用者9名全員が町内に定住。地域おこし協力隊を受け入れた事業も展開しており、移住促進に貢献。



優秀賞

一夜城ヨロイツカファーム・マルシェ部会 （神奈川県小田原市）

- ・有名パティシエと連携し、荒廃農地を再生するとともに誘客拠点の運営、直売所の経営により、会員の所得向上に貢献。
- ・客単価のアップを図ることでコロナによる販売額の減少を食い止め、年間3,000万円程度の売上を確保。



グランプリ、優秀賞及び特別賞選定に係る有識者懇談会委員の主なコメント

グランプリ

一般社団法人三重県障がい者 就農促進協議会（三重県津市）

【有識者懇談会委員の主なコメント】

- ・ ジョブトレーナーを育成し、新たな専門家が自信を持って活躍している。
- ・ 農業経営体、障がい者双方の不安を払拭する人材を育成し、福祉事業者の農業参入実績を増加させている点を評価。
- ・ 支援者を制度化し、農福連携を仕組み化してここまでの実績をあげたことはすごい。

優秀賞 (コミュニティ部門)

神山しずくプロジェクト かみやまちょう (徳島県神山町)

【有識者懇談会委員の主なコメント】

- ・ 関わる人を増やし、さらに工夫して成長を続けている点が素晴らしい。
- ・ 町役場、サテライト企業、公社の3者が連携し、加工品製造、飲食店、教育等、幅広い事業を実施している点を評価。
- ・ スギ材活用は喫緊の課題。解決例として評価。

優秀賞 (コミュニティ部門)

グループ農夫の会 のうふ やまのべまち (山形県山辺町)

【有識者懇談会委員の主なコメント】

- ・ プロサッカーチーム等と協力して棚田に注目を集めることで、棚田の保全、拡大を図っている点が評価できる。
- ・ 棚田の維持法としてはユニークな発想が見事。

優秀賞 (ビジネス部門)

株式会社ELEZO社 エレゾ とよころちょう (北海道豊頃町)

【有識者懇談会委員の主なコメント】

- ・ 会社の理念が社員に理解され、ハンターから商品、サービスまで一貫したフードチェーンが形成され、顧客層からも評価。
- ・ 食や料理人の観点で狩猟や家畜・家さんの生産を手がけ、命を最大限に生かし一切の無駄が生まれぬように取り組んでいる点を評価。
- ・ ジビエは美食という新たな価値観を創出。
- ・ 他の地域にも広がってほしい模範的な事例。

優秀賞 (ビジネス部門)

一夜城ヨロイツカファーム・マル シェ部会（神奈川県小田原市）

【有識者懇談会委員の主なコメント】

- ・ 耕作放棄地と有名パティシエという組み合わせが新鮮な驚きを与えるアイデアであり、新たな価値を創出。
- ・ 有名パティシエと連携し、耕作放棄地を再生し集客を図り、生産者の所得向上につなげている点を評価。
- ・ 同様の連携が他の地域でも展開してほしい素晴らしいモデル。

優秀賞 (個人部門)

植田 輝義 うえだ てるよし (岡山県岡山市)

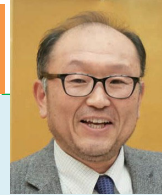
【有識者懇談会委員の主なコメント】

- ・ 楽しみながら商品をPRし、話題を呼んでいる。パワーと勢いで人と人をつなぎ、地域のコミュニティを作り、盛り上げている。
- ・ 学校等との連携も行い売上を伸ばしつつある点を評価。
- ・ プロデューサーの才能が開花。
- ・ 産地商品のブランド化の事例。受賞歴が少ないが、もっと評価されるべき。

「ディスカバー農山漁村の宝」(第8回選定) 特別賞と有識者懇談会委員のコメントについて ①

特別賞

ナイスネーミング賞
(今村委員推薦)



かんきょうだいせん
環境大善株式会社
(北海道北見市)

- 牛の尿を発酵・培養した「善玉活性水」を用い消臭液、土壌改良材等の商品開発・製造販売を実施。



【今村委員のコメント】

- 「善玉活性水」というネーミングや「牛の尿は農業を救う」というコピーが素晴らしい。

特別賞

食文化にエール賞
(向笠委員推薦)



北広島商工会「きたひろしま開拓プロジェクト委員会」
(北海道北広島市)

- 地元商工会や農業者等が連携し、赤毛米の復活栽培、加工品の企画、開発等により、市民の誇りと地域活性化に貢献。



【向笠委員のコメント】

- ゆめぴりか、ななつぼしなど北海道米のおいしさが知られつつある今、原点の赤毛米の復活は地域にとって意義が大きく、また稲作発展の証しにもなる。

特別賞

日本が誇る美景观賞
(織作委員推薦)



株式会社ワカヤマファーム
(栃木県宇都宮市)

- タケノコ、竹、栗の栽培のほか、竹林を観光資源やロケ地としても利用。



【織作委員のコメント】

- SNSを活用し4万人が来場。風景としても美しい。ビジュアルだけではなく、竹材は素材としての可能性を持っている。

特別賞

農泊賞
(藤井委員推薦)



さかづら
SAKU酒蔵アグリツーリズム推進協議会
(長野県佐久市)

- 酒蔵に「蔵人」として宿泊し、本格的な日本酒製造工程を体験できる滞在型体験プログラムを提供する世界初の酒蔵ホテルとしてインバウンドを誘致。



【藤井委員のコメント】

- 他の事例と比べても、実績は短いが新規性が高いのが評価できる。今後の酒蔵の観光のモデルにもなりえる。

特別賞

食ブランド賞
(三國委員推薦)



お茶の通販・京都おぶふ茶苑合同会社
(京都府和束町)

- ・農家の高齢化や後継者不足、耕作放棄茶園が課題の宇治茶生産地において、日本茶の通信販売や輸出のほか、オンライン教育部門にも参入。



【三國委員のコメント】

- ・世界各国の農薬基準を満たす栽培管理方法を徹底し、116カ国への直送可能な体制を構築した点、また、茶畑オーナー制度を開始する等新たな取組も行っている点が評価できる。

特別賞

空中に輝く新林賞
(横石委員推薦)



空中の村
(奈良県十津川村)

- ・森林を活用したアウトドア施設の管理、運営を行い、村の新たなツーリズムの拠点施設として誘客を推進。



【横石委員のコメント】

- ・森林の多面的機能をうまく活用しているところが評価できる。

特別賞

ブランディング確立特別賞
(林座長推薦)



那須 誠
(和歌山県田辺市)

- ・果皮が紫色の大梅品種を自らが旗振り役になってブランド化、PR活動を実施。



【林座長のコメント】

- ・紫宝梅『ミスなでしこ®』のブランディング確立を目指して種々の試みを行っており、企業との連携も優れている。

特別賞

農と地域づくり賞
(永島委員推薦)



株式会社敷信村農吉
(広島県庄原市)

- ・里山の自然を活かした保育所の運営を軸に、農産物やチーズの製造、販売等の地域密着型の事業を展開。



【永島委員のコメント】

- ・近隣都市の百貨店や飲食店に野菜の販売・卸を行い、農家所得向上、地域内交流の活性化につながっている点が評価できる。

「ディスカバー農山漁村の宝」(第8回選定) 特別賞と有識者懇談会委員のコメントについて ③

特別賞

くろかわ しんたろう

黒川 真太郎
(徳島県阿南市)

- ・農業・食品加工・販売の3本柱の小さな6次産業を実践するとともに、子育て環境の充実として学童保育を運営。



【あん委員のコメント】

- ・環境保全型農業により付加価値のある米づくりを実現し、耕作面積を増加させている点を評価。

サステナブル賞
(あん委員推薦)



特別賞

先端発信賞
(田中委員推薦)



愛媛県立三崎高等学校「せんたんプロジェクト」
(愛媛県伊方町)

- ・地域の特産物を活用したカフェを展開するほか、開発した「だいだい」マーマレードが金賞を受賞。



【田中委員のコメント】

- ・若い感性で生き生きと楽しい情報発信を行い、地域に明るい空気と話題を創出している。

有識者懇談会委員

あん・まくどなると	上智大学大学院教授、慶應義塾大学特任教授
今村 司	(株)読売巨人軍代表取締役社長
織作 峰子	大阪芸術大学教授、写真家
田中 里沙	事業構想大学院大学学長、(株)宣伝会議取締役
永島 敏行	俳優、(有)青空市場 代表取締役
林 良博(座長)	国立科学博物館顧問、東京大学名誉教授
藤井 大介	(株)大田原ツーリズム代表取締役社長、(株)ファーム・アンド・ファーム・カンパニー代表取締役社長
三國 清三	ホテル・ドゥ・ミクニ オーナーシェフ
向笠 千恵子	フードジャーナリスト、食文化研究家、郷土料理伝承学校校長
横石 知二	(株)いんどり 代表取締役社長

(五十音順、敬称略)

「ディスカバー^{むら}農山漁村の宝」有識者懇談会委員名簿

あん・まくどなると 上智大学大学院教授、慶應義塾大学特任教授

今村 司 (株)読売巨人軍代表取締役社長

織作 峰子 大阪芸術大学教授、写真家

田中 里沙 事業構想大学院大学学長、(株)宣伝会議取締役

永島 敏行 俳優、(有)青空市場代表取締役

◎ 林 良博 国立科学博物館顧問、東京大学名誉教授

藤井 大介 (株)大田原ツーリズム代表取締役社長、
(株)ファーム・アンド・ファーム・カンパニー代表取締役社長

三國 清三 オテル・ドゥ・ミクニ オーナーシェフ

向笠 千恵子 フードジャーナリスト、食文化研究家、
郷土料理伝承学校校長

横石 知二 (株)いんどり代表取締役社長

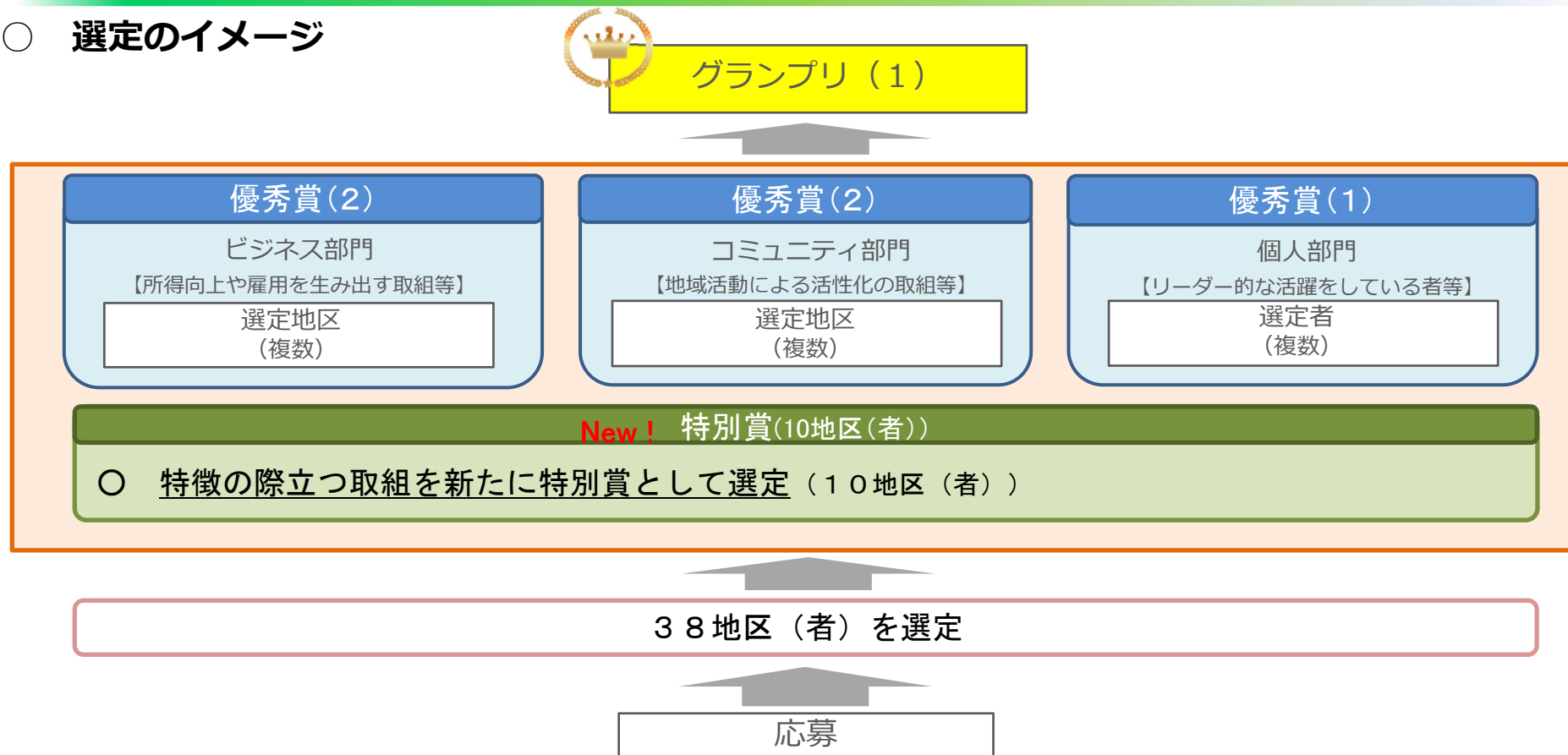
<◎：座長>

【五十音順：敬称略】

第8回選定の公募・選定について

参考2

○ 選定のイメージ



○ スケジュール

